

令和元年度 全国学力・学習状況調査の結果について

新宮町教育委員会

1 全国学力・学習状況調査について

- (1) 実施日 平成 31 年 4 月 18 日 (木)
- (2) 調査対象 小学校第 6 学年、中学校第 3 学年
- (3) 調査の内容 教科に関する調査 〈小学校：国語、算数〉
〈中学校：国語、数学、英語〉
※ 本年度より A 問題と B 問題を統合して実施
児童生徒質問紙調査
- (4) 調査方式 悉皆方式

2 調査結果について

(1) 小・中学校の結果について

小学校については、すべての教科について県平均及び全国平均を 2.4～5.2 ポイント上回っている。本年度は、特に、国語が高い傾向にある。

中学校についても小学校と同様、本年度もすべての教科について県平均及び全国平均を 6.2～8.1 ポイント上回っている。特に、国語が高い傾向にある。

(2) 全体の結果についての考察

各学校で、学力調査以前より児童・生徒の実態を分析し、学力向上の取り組みを計画的に進めながら、同時に自己肯定感や規範意識を高める学年経営・学級経営を基盤とした教育活動が展開されてきたことが成果として現れている。また、小中が連携した授業研修、学力向上プロジェクト会議、小中学校と家庭が連携した年 2 回家庭学習強化週間の取り組みが定着し、学力向上が成果として現れてきつつある。

解答内容を分析すると、正答でなかった問題でも無解答率が全国平均と比べると低く児童生徒が難しい問題に対して、あきらめずに最後まで考える粘り強さが出てきているのではないかと考える。

今後も、日常の授業改善に取り組むとともに、反復学習や補充学習の実施、少人数指導やスキルタイムの設置など、実態に応じた多様な学習形態の工夫を行いながら、課題に対して粘り強く取り組む児童生徒を育てていく必要がある。

(3) 児童生徒の質問紙の回答結果の考察

基本的な生活習慣は身につけているものの、就寝時間については不規則な面が見られるため、改善に向けて、学校・家庭において児童生徒が要因について考える機会をつくり、家庭への啓発・児童生徒への指導を継続して行うことが必要である。また、小中学校どちらにおいても、自己有用感や将来の夢や目標についての意識が全国平均と比較して高い傾向にある。

各項目の回答結果は次のようであった。

学校における学習活動について

- ・国語科、算数科数学科、英語科について

「重要性を感じ、将来社会に出たときに役に立つと感じている割合」 小中ともに全国平均より高い。

「目的をもって話したり書いたりする活動をしている割合」 小中ともに全国平均より高い。

「重要性を感じ、将来社会に出たときに役に立つと感じている割合」 小学校やや低く中学校高い。

「重要性を感じ、将来社会に出たときに役に立つと感じている割合」 中学校+5.8～8.5

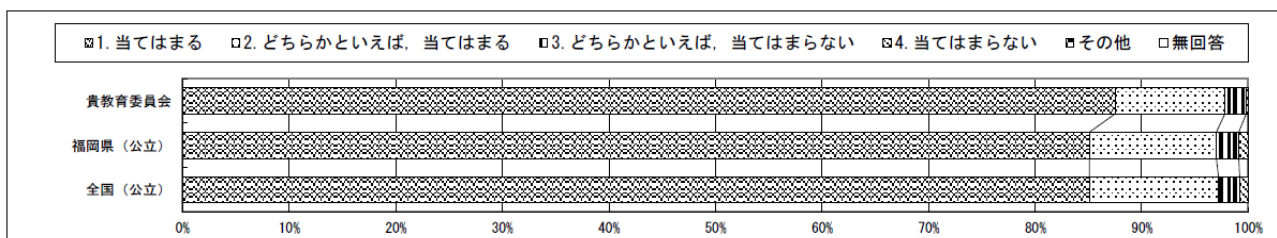
「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり、職業に就いたりしたいと思うか」 中学校-0.4

- ・「授業でもっとコンピュータなどICTを活用したいか」 小学校 62.8%(+2.0)中学校 71.2%(+23.2)
- ・「授業で学んだことを他の学習に生かしているか」 小学校+0.1 中学校+15.1
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して調べたことを発表する等の学習活動に取り組んでいると思うか」 小学校+4.3 中学校+10.8
- ・「あなたの学級では、学校生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていると思うか」 小学校+2.0 中学校+23.0
- ・「学級活動における学級での話し合い生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいると思うか」 小学校+5.7 中学校+16.6
- ・「これまでに受けた授業では、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んでいたと思うか」 小学校+10.0 中学校+20.3

国語・算数数学・英語の各教科において、重要性や有用感を感じながら意欲的に取り組んでいることが分かる。小学校算数においては、新たな問題への挑戦意欲が高まるような、単元を通じた授業改善が必要である。総合的な学習の時間、学級活動、道徳において、小中学校ともに全国平均より高い数値を示している。しかし、児童と生徒の認識の差が生まれる要因をさぐり、中学校へつながる活動を仕組まねばならない。また、特別の教科道徳での小中の認識の差を改善するよう小学校において道徳教育推進教員を中心とした校内研修や小中合同研修の充実を図る必要がある。

いじめの認識について

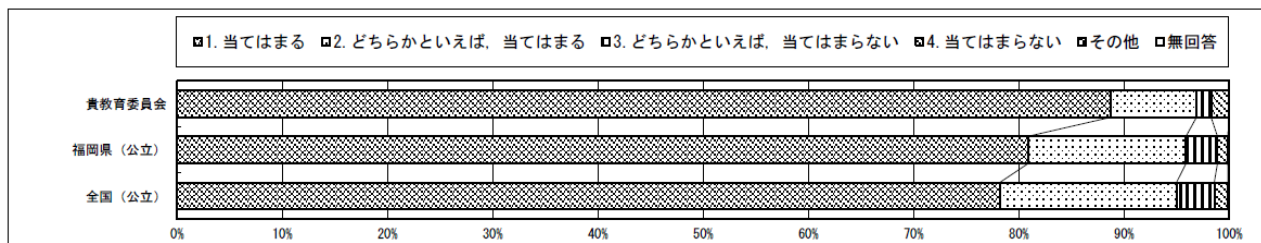
- ・「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うか」
 小学校 87.4% 3と4回答 2.2%
 中学校 88.7% 3と4回答 3.1%



約9割の児童生徒が正しく認識している。また、3と4に回答している児童生徒については、今後継続した丁寧な見とりが必要であると考えます。

地域貢献について

- ・「いま住んでいる地域の行事に参加しているか」 小学校+17.8 中学校+17.7
- ・「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがあるか」 小学校+12.9 中学校+7.4



夏祭りや地域の催しに積極的に参加している児童生徒が多い。参加するだけでなく、運営側として活動し、地域をよりよくする一員となっていることを自覚化させる活動を充実させたい。

さらに、教師のあたたかい賞賛や粘り強い励ましを続けることで、失敗を恐れず、最後まであきらめず挑戦し、自分たちの力でやり遂げる児童生徒の育成を目指していく。次年度も小中9カ年間を通して、継続した取り組みを着実に積み重ねていきたい。